



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2017年9月1日

9月号・第188号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 未一



夏休みイベント・里山探検

Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることが出来ます



URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	8月・月例研修会・報告	8
多土済々	2	やさしい昆虫講座	9
Monthly Repo.ならやま	3	癒しの散歩道 & ならやま茶論	10
里山の今	4・5・6	ならやまプロジェクト	11
夏休みイベント①・報告	7	行事案内	12
		幹事会報告 & 行事予告	13

壮春力歩

会長 鈴木 末一

◆「シニア世代の生き甲斐」を卒論に

会専用のメールアドレスには、毎日のように各方面から受信する。ある日、その中の一通に目が止まり開いてみた。大阪大学人間科学部4回生の女子学生の方からである。

「卒業論文のテーマに、シニア世代の生き甲斐に関わることを選びました。そこで、奈良市ボランティアセンターへ相談に行ったところ、『奈良・人と自然の会』を紹介していただいた。会員の皆さんと一緒に活動しながら、卒論を纏めていきたいので、是非よろしくお願ひいたします」とのことであった。

早速8月10日(木)の活動日にならやまへ来ていただき、会員の皆さんに紹介したところ、久しぶりに二十代の見学者を迎えたからか、大歓迎の拍手である。朝の打ち合わせの後、辻本事務局長の案内でシニア大学校の実習生と共に、里山林一帯を探訪。市街地のすぐ隣で、日本の原風景に接することのできる感動を味わってもらった。その後、短時間だったが、一緒に活動も体験された。

「第一印象はいかがでしたか」と問うと、開口一番「皆さん、本当にお元気ですね」。「みなさん、私の祖父母とほぼ同年輩かとお見受けしますが、このような暑さにも関わらず、生き生きと作業に勤しんでおられるのを拝見し、私なんかもっと頑張らないといけないと、活力を与えていただきました」「これからも皆さんの輪の中に入れていただき、できるだけ多くの方々とお話したいと思ひます」とおっしゃる。

まだスタートラインに立ったばかりだが、活動に参加する度に、彼女がどのように変貌していき、そして、どのような内容の論文を完成させてくれるのだろうか、その日が待ち遠しく思われる。

ところで、彼女が学ぶ人間科学部という学部名は、何か目新しいように思われるが、創設されて既に半世紀近くなる。少し専門的になるかもしれませんが、今こそ、「人間とは何か」「社会とは何か」という人間科学にとっての、根源的な問いに立ち返ることが求められているのでは……。また、「共生学科目」というのがある。専門的には「多元性を互いに認め合い、対等な関係を築きながら、ともに生きる」実践と研究を目的としている。平たく言えば、「人間が人間らしく生きる」とはどういうことなのかを探求することである。そこで、学内で学問的な真理を探究するだけでなく、学

外で多くの人々と関わる実践性も重視している。

共生とは、「民族、言語、宗教、国籍、世代など、様々な違いを持つ人々が、文化やアイデンティティの多元性を互いに認め合い、対等な関係を築き、共に生きる」ことを意味している。

このような学問領域で研究している若い感性の彼女が、「奈良・人と自然の会」について、どのような切り口で分析し、シニア世代の生き甲斐を探究してくれるだろうか。興味津々である。

◆再会

盛夏のある晩、待ちに待ったOさんとの出会いがあった。電話では何回か話してはいたが、まさしく20年ぶりである。しばらくの間懐旧談に花咲かせていると、お互いに時空を超えて、色々な話題が飛び出してくる。偶然かもしれないが、ほぼ同じ内容なのには驚きである。「奈良・人と自然の会」についても、強い関心を持たれたようである。「参加したいナ」と身を乗り出された。

お互いに後期高齢者の仲間入りしている。今や日本は、高齢化社会へと日々加速し続けている。加齢に伴う脚力などの衰えは、致し方ないかもしれない。健康寿命を延ばすための生活習慣を身につけることが肝要であり、そして、多くの人とのコミュニケーションも大切である。

Oさんは、家の近くに土地を借りて農業をやり始め、自分で苦勞して栽培した安全安心で新鮮な野菜を食べられることと、自分の力で食べるものを作れるという新しい体験、そして、野菜との無言の会話ができる嬉しさを感じている、とのこと。

近年、農業を生活の基盤に選ぶ人たちが、増加しつつある。シニア世代は言うに及ばず、若い世代にも〇〇ファームという企業形態の新しい農業に従事する人も増えつつある。もちろん、若い世代では収益が見込まれなければならない。シニア世代では、収益はともかく、健康と新鮮な食物を手に入れることができる。これに勝るものはないと言えるのではなからうか。

◆熱いならやま

猛暑の中、都市のオアシスならやまは、しなやかな感性の女子大生はじめ、夏のイベントなどで小学生や若い父母たち、それに、農業に目を開いたシニアまで、多くの人たちを迎え、まるで世代のつぼ。幅広い世代との交流を通して、多くのニーズに応えられる「ならやまユートピア構想」を具現化していくための心眼力、つまり最も大切なものにフォーカスする力を磨かなければ、と痛感した。



仲良き ご夫妻

岸谷順裕さん 和代さん

顧問 阿部 和生

スルスルっと車が近づいてきます。ワーゲンの黒、やはり岸谷さんご夫婦の車だ！いつものようにお揃いで“ならやま”ご参加です。前の車はハリアーで北海道・東北・信越・日本海側など遠出の旅で随分と活用されていました。大きめのボディは、アウトドアには最適であろうとあこがれていた車の一つでしたから、その使われ方にも関心がありました。毎年夏は避暑と称して1ヶ月ほどあちこちに愛車を駆って出かけられる、羨ましい生活環境をお持ちです。今年もやはり新しい車でお出かけでした。お気に入りの東北かな？

会員構成がまだシニア自然大学校終了生がほとんどの頃、“ならやまの自転車道”をお二人で散策されていて興味を持たれて入会されたのです。地域の方々のご入会が珍しかった頃で、とても嬉しく感激しました。強く印象に残っています。

ご自宅の応接室には、ご自慢の戦艦や帆船のミニチュアが飾られ、それらは細部まで手を抜かない精巧さに驚嘆しました。



「昔やっていたんでいまは駄目」だそうです。一艘の完成には1年ほども費や

す根気のいる作業で素晴らしい仕上がりです。マストに登る網、引き締める滑車、細部へのこだわり、忠実さは大変な凝りようで素晴らしい！

テニス、ゴルフ、野球、旅行と多趣味なところへ緻密な作業があり、そしてならやまが加わり、現役以上の忙しさ(?)で過ごされています。幹事への就任要請もしたのですが「まだまだやりたいことがありすぎて時間がとれない」と固辞されたことを思い出します。夏の旅行は、気分転換、英気を養って帰宅されます。

順裕さんは里山グループに、奥様はエコファームグループにと活動分野は違っても昼食時には必ず「おひな様」、お二人揃っての食事と当初からその仲の良さは際立っていました。それだけにしばらくお顔を见ない原因が長期旅行と知るまでは、どうされたんだろう？とついつい気になったものです。



里山林整備では、伐採と共に樹木の後始末が重要です。手間が掛る厄介な欠かせない作業です。

「ノコギリを使つての作業は手首が大変、手軽に使えるチェンソーは?…」と相談を受け、枝打ち用の小型のチェンソーを導入したことでした。しっかりと扱いを身につけられ、ご自分の考えを率直に話される、里山グループではなくてはならない存在です。アドバイス、苦言も含めこれからもしっかりと提言して欲しいと願っています。

滋賀県出身の奥様は、バイクも颯爽と乗りこなす行動派です。よく通るその声は性格通り(?)はつらつと響きます。いまではエコファームG古参として畑作業に精を出される毎日で、萱野リーダーの厚い信頼があります。エコファームGでは、夏場毎週月曜日が臨時活動日とされて多くの方々も早朝から畑作業をなさっています。そうしたとき女性陣も本当に頼りになるでしょう。快活な作業と笑顔そしておしゃべりは素晴らしい潤滑油です。そうした地道な作業があればこそ活動日の順調な収穫が伴うのだなと感心しています。

笹群落を刈り取り畑地に戻した当初の頃を知るお二人の健康な活動姿は、私たちの理想の一つです。畑地が当初の数倍の広さになり、里山林整備は、受託地の拡大と共に枯損木コナラの大量伐採が続きます。旅でリフレッシュされ、これからの一層のご活躍が目に見えます。

Monthly Repo. **ならやま**

八木 順一

7月27日(木) 活動 晴れ 60名+7名

蒸し暑いが、作物は元気。ほのぼの基金用に提供される野菜の収穫量も大変多く、本日からスイカとカボチャがデビューした。そのため売上高も多くなった。里山 G は枯死木の伐倒、エコ G は野菜類の収穫、そして景観 G はサイト周辺の草刈りに取り組む。また、ビオ班は里山 G と協力しながら学びの森付近の笹刈り、花班はアジサイの剪定を中心に、パト G はパトロール1コースに加え、観察路の補修に回る。その他果樹園クラブも枝の剪定に汗を流す。近大生3名、シニア生3名、そ



して会員のお孫さん1名が活動に参加。打合わせはイベント関係のものが多い。

8月3日(木) 活動 晴れ 65名

8月を迎え、サイトもわずかずつだが、秋の装いを始めた。打合わせでは熱中症への備えや、イベントのスタッフ募集、その他忘れ物の注意喚起が行われる。また月初めの協働作業が行われる。里山 G は協働作業の中心となり松山の土かき、エコ G はナスやシシトウなどの収穫や水やり、そして景観 G は東池周辺の草刈りに取り組む。また、ビオ班はレンコン畑の整備、花班は花壇の草引きや施肥、そしてパト G はパトロールで3コースを回る。

8月10日(木) 活動 晴れ 66名+4名

蒸し暑く、お盆を目前にした活動日だったが、66名の会員のほか、シニア生や外部団体などから

4名来訪者があり、熱心に当会の活動を見学。打ち合わせでは熱中症への備えや、イベントの説明会実施の件のほか来訪者の紹介が行われる。里山 G はイベント実施に向けての散策路などの整備、エコ G は野菜の収穫と畝づくり、そして景観 G はそば畑の草刈りと施肥に取り組む。その他ビオ班は水生生物調査、花班は花畑の草取り、そしてパト G は観察路の階段整備にあたる。

8月17日(木) 活動 晴れ 66名+6名

夏休み2度目のイベントが目前になる。里山 G は遊びの広場や山登り用のロープの設定、景観 G やビオ班は駐車場やサイト近辺、池の草刈りをはじめとする環境整備、パト G は散策路の整備・確認などとサイト全体がイベントの準備や環境整備で慌ただしくなる。その他エコ G は野菜の収穫や秋野菜の畝づくりと播種、花班はミョウガ畑の整理などに取り組む。打合わせではシニア生や来訪者の紹介のほか、イベント実施についての最終確認の打ち

合わせ開催の連絡などが中心になる。また、佐保台小からパソコンで制作された案山子が届く。



8月19日(土) イベント 晴れ 38名+68名

夏2度目のイベント。暑い日だったが好天に恵まれ、スタッフ38名、参加者68名が集う。午前中は子供たちが中心となって飯盒炊飯。カレー作りの他、飯炊きに挑戦。家庭ではなかなか経験できない貴重な時間となった。また午後は2班ごとに分かれて、自然工作のブローチ作りと山に入るとの里山探検が行われる。特に里山ではロープを使つての山登り体験や広場に作られた遊具を思う存分堪能した。

里山グループ

森 英雄



エコファームグループ

小山 喜与男

◆「肥」の愚考

連日、茹だるような暑さが続きます。雑草の成長力には目を見張るものがある。なかでも畑の草々はメヒシバ、オヒシバ、エノコログサ、イヌビユ、スベリヒユが主体をなす。

今年も旺盛な繁殖がみられ、南瓜や西瓜の植栽地は植付後の草引きをしなかった所為か、草に蔽われ蔓の繁茂と相俟って実を穫りだすのに一苦労を味わう。

一面、雑草は陽除けの役目を果たし、水遣りの手間を省き、水不足を補うなど一概に悪役扱い。今や雑草の園と化した畑やその周辺をみるにつけ、その成長力を支えるのは土壤の肥沃化である。「ならやまベースキャンプ」を貫く道路脇には絶えずチップや牛糞が堆積され、数年を経て見事な堆肥と化し、それを元肥として開墾地に鋤き込まれてきた。造園業者から提供されるチップは農事者にとって垂涎の的とされ、それが格安に手に入り、ふんだんに使える。何と恵まれた境遇であることよ。

肥といえば、昭和35年くらいまでは人糞が主役であった。田んぼの一面に野壺(肥溜)が首を出し、糞便がプカリプカリと浮いていた。一般家庭は農家と尿尿の汲み取りを内諾し、周期的に御用聞きのように牛車や馬車で廻ってきた。これがバキュームに代わったのは何時の頃か。東京では戦後の一時期、牛車、トラックの不足で西武電車が郊外に運んだという。人糞を肥料とする農業が姿を消したのは、便所が「W・C、トイレ」と称(よ)ばれ水洗化されたのが契機でなかったか。今では「お手洗い」と上品振る便所は厠、雪隠、東司(とうす)と称した時代があった。便所から這い出る雪隠虫を熱湯で厠に流し落したものだ。

獣糞が肥料として大手を振っているのに人糞が下水に垂れ流しとは如何にも理不尽で勿体ないと思う。高品質である筈の人糞を肥料化する技術開発を急ぐ必要がある。如何。

自宅近くの山々(王寺町)の激しいナラ枯れ被害に対し、ならやま里山林はほとんど被害木が見られません。ちょうど1年前のこの欄に、『ナラ枯れ終息宣言』の記事を書き、これが縁となり、ならやまのナラ枯れ対策が新聞記事となったり、他にも波及効果が出ました。ずっと不安でしたが、今、やっと、安心しているところです。

里山グループも、チェーンソーによるコナラ伐採の作業からかなり解放され、平常の里山整備・資源利用などへと方向転換がなされました。

この流れの中で、最近是他グループとの協働作業も増えてきました。マツタケ林での一斉作業、パトロールグループとの自然散策路の整備、メンテナンス班との協働作業、工作チームとの協働など、多彩な動きになってきています。

ならやま環境整備事業を始めて数年間は全員による作業などもあり、かなり一体感を感じていましたが、参加者増加・作業量の更なる増加につれ、セクト主義的な雰囲気はかなり感じられるようになりました。そんな折、今年度から正式に始まった一斉作業は、全員の協働作業による効率化と同時に、会員相互のコミュニケーションを良くしようという狙いがあります。この事からみても、里山グループの今の動きは会の狙っている方向に向かっているのではないかと思っています。

勿論、その為には、里山グループ独自の作業に割く時間をバランスよくとることが重要です。それと同時に、メンバー間のコミュニケーションを従来以上に大切にしなければいけないと思います。(ちゃんとやれるかなあ…?)

この心配は杞憂でした！ 8月下旬に里山メンバー中心の懇親会(飲み会)がちゃんとセットされていました。さすが！ 私も日頃、なかなか作業に加われず外部から見ている感がありましたので、この日は久しぶりにメンバーの一員として、ノミネーションをしっかりと楽しもうと思っています。よろしくね。

景観グループ

松尾 弘



パトロールグループ

守口 京子

◆北壁の観察路

入会して10か月経ちました。今は景観Gで刈払機を使っています。始めた頃は、左に右に振り回していました。講習を受けてからは、左に左に刈っています。振り回していた時にキックバックを何回か体験したからです。腰の高さ位まで伸びた下草を刈り払うと気持ちがいいです。もちろん刈払機を使うのは、生まれて初めてです。この会に入ってから、生まれて初めての連続です。

子供たちのさつま芋掘りのサポートをしました。他の会員を見真似て、スコップで土をゆるめてみましたが、芋を切ったのでうまくできませんでした。次の日、自分で掘ってみて芋の状態が少し分かったので、来年はもっと上手にできましょう。じゃが芋は、芋を植えますが、「さつま芋はつるを植える」は、子供たちの植えるのを見て、確認しました。

秋に第5地区（現・実りの森）の竹林を整備しました。その時、福田さんに竹の子掘りの講義を受けました。春になって、竹の子探しをしました。盗掘跡ばかり。それでも2～3本採りました。ある日、昼から竹の子掘りだと言うので、クワを持って実りの森の竹林へ行きました。誰も居ないので、一人で掘り始めました。すると今までより3倍も大きいのをを見つけました。掘ろうとして、邪魔な竹の枝葉を持ち上げると、同じ位太いのが、あと2本も顔を出しています。根元の見当をつけて、クワを打ち込みましたが、クワをえぐると付け根が半分程欠けてしまいました。3本目はきれいに取ることができました。今年の最後でしたが、来年は上手に掘れると思います。

今年、後期高齢者になりました。運転免許証の切り替えにボケチェックが必要になりました。2千円弱かかりましたが、無事再交付できました。いつどうなっても、おかしくない年齢になったと思っています。その「いつどうなるか」まで、ここで楽しく活動できたらいいなと思っています。明るく・楽しく・無理をせずに!!

数年前4つのパトロールコースを設定したとき是非加えて欲しかったのが北壁の観察路で、第4コース（北壁コース）の一部となっています。緑のトンネルをくぐる道は深山の趣の気持ちのよい所で、私のお気に入りです。しかし上の方へ行くと急斜面となり、木につかまりよじ登らなければならない難所で、おまけにどこが道かわからないとパトロールメンバーには評判が悪かったです。それでコースを設定した者として責任を感じていました。幸いなことに今年度花王の支援を受け、観察路整備が行われることになり、早速この4コースの整備に取り組みました。春に里山G、景観Gから応援を得て急斜面を避けて迂回ルートに作り直し、見違えるほどよい観察路になりました。背負子に丸太を入れて坂道を担ぎ上げ、鍬や槌を振るってくださった皆さんに感謝、感激です。夏を迎えこの観察路も他の観察路と同じく枯死木が落下したり、草が茂ったりで、整備を続けています。新道の渡り初めがまだの皆さん是非登ってみてください。



夏もちょっと涼しい木漏れ日の道



土木工事の達人の仕事



セミの抜け殻の花が咲く

ならやま花だより

桜木 晴代



鳥シリーズ

小田 久美子

◆親の愛 アオサギ

この原稿は、ほとんどの鳥たちが巣立ちを終え今大人になる為の研修中の8月初旬に書いています。鳥たちは天敵から逃れるため、いつもは木の上や草叢や湖の中で眠ったりしています。

この時期、親たちは一人前にするために献身的に子に接しています。暑い夏は親たちも暑さから若鳥を守ってやらなければいけません。これは撮影者上山さんが、森進一の「おふくろさん」の一節 ♪傘になれよと教えてくれた♪に因んで「傘になれよ」と題した「アオサギ」の写真です。



子育てを終えた夏鳥(ツバメやサシバ、オオルリたち)は原稿の届く頃には南

に旅立っています。

今、シギ、チドリなどの旅鳥たちもやってきて、そろそろ北からの渡り鳥たちの季節が始まっています。今年の奈良は梅雨の雨が少なく、もう梅雨明けしているだろうという思いのまま夏にだれ込んだ感があります。9月もまだまだその暑さが続くようで熱中症が心配な日々です。

奈良とは反対に、熊本から始まって各地に甚大な水被害がある日本列島。だけかと思いきや、これは世界的現象のようです。そのニュースがある度に、被災された町村や人々の映像を見て自然の猛威に驚きながらも、野生動物たち、特に鳥たちの隠れ場はあるのだろうか心配になります。当然のことながら彼らには難民キャンプも避難所もありません。人間のようにその旅をキャンセルして帰るといった選択肢もありません。旅は経験のないその年生まれの若鳥たちもいます。「天敵の脅威」と「自然の猛威」に果敢に挑む生き物たちを思う時、人間たちの生活が大きく影響していることなど色々考えさせられる今日この頃です。

今年も芽を出してくれるのだろうか、と期待と不安を抱きながら、活動日ごとにジュズダマ畑を覗いていました。春先に、芽を出していることを確認。花班やエコファームGに迷惑がかからないように、はみ出した芽を極力抜きました。でも、もったいなくて移植した苗の塊りも多数あります。

8月の初めには稲穂のような花が咲き始め、今年もかなりの収穫が望めそうです。でも、相当花班に迷惑をかけているのが気になっています。



ジュズダマの花



ジュズダマ畑



虫食いの葉



葉を食べる犯人

(クロコノマチョウの幼虫)

ジュズダマの薬効 (服用方法)

***胃潰瘍・十二指腸潰瘍** (オオバコ、ドクダミ、ヨモギ、ゲンノショウコ、時によりハコベを加え、この中にジュズダマ 50 個位を金づちで叩き、殻ごと入れ、これを一日分として煎じて、3回に分けて温服する)

***いぼとり** (ニキビとイボに悩んでいた娘さんが、栽培のハトムギを2か月連用したが効果なく、ジュズダマの煎服に切り替えて、10日ばかりでイボが見事にとれた)

***黄疸** (根を煎じて飲む)

何人かの会員の方が、地元のイベントでジュズダマプレスレットの工作を活用してくれました。ジュズダマプレスレットのセットを、常に100セット用意しておくことを目指しています。会でドリルも購入し、ならやまでの活動日にも穴あけが可能になりました。無心になれる魅力的な作業です。一度、是非、お試しください。

夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！①

永井 幸次

7月22日(土)梅雨明けの発表もあり、朝から30℃と今日も猛暑を思わせる天候となりました。この日は、夏休み最初の土曜日ということもあって、小学生・幼稚園児計33名、幼児4名、保護者29名、当会スタッフ40名、合計106名と多数の参加者での開催となりました。



まず八木副会長の司会で開会式を行い、森副会長の挨拶、辻本事務局長より安全講話、会の運営説明などの話がありました。そして、場所を変えて記念撮影の後、4班に分かれ、飯盒炊さんとカレー作りに取り掛かりました。

カレー作りの子供たちには、タマネギとジャガイモ、ニンジンの調理をしてもらいました。残りの子供たちにはブロックでかまど作りと、飯盒でコメを洗ってもらいました。飯盒にクレンザーを塗るのにも、指先でチョコンと塗る子、手のひらにべったりつけて塗る子とさまざまでした。また、マッチをさわるのも初めての子もいたため、かまどに新聞紙と小枝を入れマッチで火をつける



前に、マッチのつけ方を話してからやってもらいました。

予定の12時には、ご飯もカレーも出来上がりました。自分たちで作ったカレーライスの味は格別だったようで、お代わりをする子もいました。食事の後の片付けは、子供たちと一緒にお母さんも手伝っていただきました。

午後からは、2つのグループに分かれて昆虫採集、水生生物観察と緑のクイズを行いました。昆虫採集ではバッタやトンボ、蝶々をたくさん捕まえた子もいました。中には、ナガサキアゲハを捕まえて嬉しそうに見せてくれた子もいました。



水生生物観察では、みんなでビオトープを囲み、池の生物の説明を聞きました。子供たちも真剣なまなざしで聞いていました。



緑のクイズの時間には、辻本さんがいろんなカードを出しながら植物の説明をしてくれました。真剣に取り組む姿が見られました。

終了後アンケートを書いてもらい、鹿の折り紙、シュロで作ったバッタ、かご付きのかぶとむしをお土産に、無事今回のイベントも終わりました。

本会をサポートしてくださった会員の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

8月・月例研修会
吉野川源流・三之公川
原生林「水源地の森」の自然に触れる

桜木 晴代

8月1日(火)、未明の突然の雷鳴に目を覚ます。雨の中の御一行様になるのかと、早朝に恐る恐る窓を開けると何と晴天。ヤッター！でも現地では雨後の行軍か？と不安がよぎる。

24名で定刻の8時に近鉄奈良駅前を出発。一路、川上村へとバスは走る。車窓のオニユリと咲き始めのウバユリが旅に彩を添えてくれていた。

車中では、歴史的な地、宇陀や吉野宮瀧、大滝ダムの詳しい説明があり、当時に思いをはせながら第一の目的地を目指すこと2時間余り。

吉野川「森と川の源流館」に到着。源流館は、立派な建物で、内部も非常に工夫が凝らされており、川上村の歴史、風土、自然、産業などがわかりやすく展示されている。日本最大級のパノラマで源流の森を体験。かけがえのない源流の森からのメッセージを胸に刻む。時間が許せばもっとゆっくり見学したい施設である。

三之公川出合で下車し、まずは、樹々や清く澄みアマゴが泳ぐ川の流れると、岩を覆う瑞々しい一面の苔を眺めながらのランチタイム。

案内の研究員木村さんに従い、山の神に道中の無事を祈る。上西研究員との2班に分かれて出発。いきなり急な階段。「しんどいのはここだけですから」との木村さんの言葉を信じ、歩き始める。



シーボルトミミズ

シーボルトが他の動植物の標本と共にオランダに標本を送ったことからの命名



吉野杉の所有者を示す書込み

程なく、美しい大きなミミズに遭遇。名はシーボルトミミズ。シルバーバイオレットで美しい。

吉野林業の特徴や、大阪城築城に吉野杉が使われ有名になったが、近年は採算が取れなくなり林

業が廃れたこと、先人たちが残してきた自然と意思を受け継ぎ、三之公川源流の740haを買い取り水源地の森として守っているなどの説明に耳を傾けながら進む。生物多様性がなぜ大切なのかを、樹々から採取して創る生薬を例に説明を受ける。

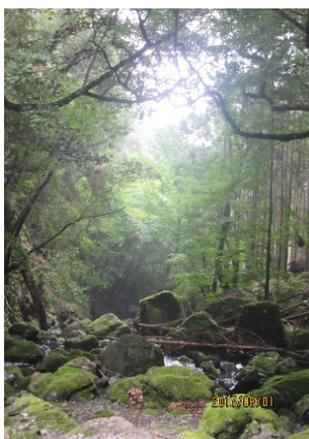


案内中の上西さん



案内中の木村さん

クサギの花、アブラチャンの実を観察。水の滴る苔むした岩肌で瑞々しい姿で咲いていたイワタバコの花が心なやませてくれた。森では日本固有のトガサワラ、シノブイトゴケなども生育し原始的な自然環境が残されている。



樹々と清流のある風景



イワタバコ

苔は土に生えるのではなく、岩に張りつき、川の水蒸気で育つ

帰りの車中では木村さんより吉野林業の父、土倉庄三郎の話が披露された。庄三郎は、自らの財産を「三分之一は国のため、三分之一は教育のため、三分之一は事業のため」という信念を貫いたとのこと。女子教育の重要なことを理解し日本女子大設立に尽力したなど、庄三郎にまつわる興味深いエピソードや、丹生川上神社の歴史的経緯など話は尽きず、分かりやすく親しみやすい語り口に皆聞き惚れた。庄三郎は今でも郷土の偉人として尊敬されている。

雨後の、滑りやすい丸太橋や岩場をバランスを取りながら歩くスリル満点の行程。一度は訪れたかったという人も多く、満足の声。

5時過ぎ、全員無事に奈良に帰着した。

やさしい病害虫講座 29

「大食いの居候」

木村 裕

我が家には大食いの居候がたくさん住み着いており、エンゲル係数が高くなっていると、奥様にぼやかれています。

その居候の影響をもろに受けているのがアサガオで、お尻に1本の角を生やし、私たちの指よりも太くなったイモムシさんが、貴重な葉を毎日パクパク食べて、大きな黒い糞を、株元にゴロゴロ転がしています。



保護者はエビガラスズメさん（蛾）で、胴体が太くて、背中に茹でたエビのように赤い縞模様があります。お子様は8月頃から発生しますが、その頃は体が小さく食べる量もほんの僅かなので気がつきません。9月になって、皮を脱ぎ最終段階になると、一気に体が大きくなり食べる量も急増します。食べ盛りの中高生を養っているようなものです。この幼虫は衣装持ちで、黄色、緑色、黒色など装いはまちまちです。



体が大きいにも関わらず体色が保護色なため葉や茎にとまってもなかなか見つかりません。転がっている大きな虫糞が発生の手掛かりになりますので、発生ありとなればじっと葉を覗んで虫を見つけて捕獲しましょう。

好き嫌いなく何でも美味しく葉っぱを食べてくれるのがヨトウムシさんです。ちょっと油断すると、育苗中の小さな花苗があつという間に丸坊主にされて、軸だけになっています。虫がまだ小さな頃は食べる量も僅かなので発生に気がつきませんが、大きくなると食うは食うはで、食べる量は半端ではありません。この頃にはすでに地中に潜っているので薬剤散布は手遅れで、夜8時頃、懐中電灯をもって見回り、葉上で胡坐座りをしている虫を捕まえているしだいです。



ならやまでも花から花へヒラヒラと飛びまわっているツマグロヒョウモンさん。黄色の地に黒い筋模様があるので、豹紋蝶と言われており、オスの蝶の羽の先が黒いのが特徴です。幼虫の主食である、野生のスミレと宿根の西洋スミレが豊富にあることから、一年中我が家の庭で増え続けていたのですが、一昨年あたりからお子様が一言の断りもなく育苗中のパンジー苗を無断でムシジャクシャと根こそぎ食べ、困ったものです。



ならやま茶論

「見えない問題 or 歓喜」

竹本 雅昭

翁：おはよう、ご苦労さんでした。

ロープ：やあ、お早いお出まして。

翁：何か問題はなかったかな。

ロープ：別に何も。只皆さんが帰られて
からがちょっとね。

翁：と言うと。

ロープ：こゝの門柱になってる二本杉ですが、彼らは「生まれてこの方一步も」でしょう。だからどっちもイライラ、その上この暑さで尚更ですわ。片方が「もっとそっちへ行ってくれ」と文句。相手も「何言うてんねん、お前こそあっちへ……」としょっちゅう喧嘩ですわ。

翁：間に入ってあんたも苦労するな。

ロープ：もう生活習慣病で頭の痛いこと
ですわ。

翁：そうかそうか、それからどうした。

ロープ：しばらくすると「ツーと飛んできてルッと止まる」そんな上品やったらえゝんですけど、バサバサと不作法に止まるからす夫婦。早速、マリア・カラスのソプラノじゃないけど“アーアー”テノールで“カーカー”と二羽でまるでオペラ気取りですわ。

翁：わしも聞いて見たいな。

ロープ：するとこの時だけ二本杉も上きげんにブラボー!! ブラボー!! の連発ですねん。

翁：ところでオペラのストーリーは？

ロープ：「アナタ……何だいカーチャン……」後はカラス語勉強せな意味不明ですわ。

※ロープ（駐車場入口の二本杉に張った門番）

～終～

癒しの散歩道

若き日の随想

谷川 萬太郎

切ない夏のノスタルジア

(1) 夏色の風が吹けば青空が広がる

黄色の眩い向日葵の顔がゆれて
待ちわびた季節の香りいっぱい

羽音を鳴らす蜜蜂の仲間たちよ
後追い駆けて海辺に走る若者の

小麦色の肌眩し過ぎる程に光る
弾ける玉の飛沫キラキラと輝き

水色の波の間に々に躍る笑顔清く

(2) 日に焼けた茜色の山肌眺めれば

時の流れに移りゆく景色も麗し
紅く染まりし夕日に遠ざかるは

貴女の澄んだ瞳に映る夏の面影
短き夏は花火の様に燃え尽きて

いつかは闇に吞まれ消されゆく
虹色に輝いた夏は静かに色褪せ

恋しや忘れがたきは故郷よあゝ



ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

活動予定日

9月	7 (木)	14 (木)	21 (木)
10月	5 (木)	12 (木)	19 (木)
	26 (木)		

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 haの里山林地（県有林）

◆ 集合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆ 終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10分
 - ② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統
8：28発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統
8：36発JR奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。



◆ 連絡先：八木 順一

里山

9/7 「協働作業の日」松林の土掻き
下草刈り／北側皆伐地区整理／薪割り

14 21 28

散策路策路周辺枯死木伐倒・整理／植樹付近の下
草刈り／薪割り／区画割り名札修理



景観

9/7 「協働作業の日」松林の土掻き
整備：BC周辺／彩の森草刈り整備

ビオ：池の整備

はな：葉牡丹・紅葉アオイ移植，除草

14 整備：彩の森草刈り／整備

ビオ：池の整備

はな：イチハツ・紫露草の植え替え

21 整備：彩の森草刈り／整備

ビオ：西池生物調査

はな：垣根沿い秋花の整備、除草

28 整備：実りの森草刈り／整備

ビオ：池の整備

はな：夏花の整理、春花の種まき

エコファーム

9/7 「協働作業の日」松林の土掻き
大根種まき／YRくらま・丸大根・日野菜
小カブ・ニンジン

果樹：梅の剪定・ブルーベリーお礼肥え

蕎麦：草取り土寄せ

14

ブロッコリー・ハボタン植え付け

大根種まき YRくらま青首大根／ニンニク植え付け

蕎麦：草取り土寄せ

21

種まきタマネギ（ターボ赤玉）／菜花・チンゲンサイ

水菜・壬生菜・レタス・大和まな

果樹：栗等への網掛け／ブルーベリー苗床の準備

28

ほうれん草・春菊・種まき

ネギに追肥 土寄せ

パトロール

9/7 「協働作業の日」松林の土掻き
観察路の笹刈り／丸太階段補修

樹木銘板他のメンテナンス

14 観察路の笹刈り／丸太階段補修

樹木銘板他のメンテナンス

21 28 観察路の笹刈り／丸太階段補修

手摺ロープの取り替え

行事案内



9月歴史研修会ご案内 「淡路島」 ～国生み神話の淡路島と古代遺跡を訪ねる～

日本神話によると、イザナギノミコト・イザナミノミコトにより、神々が作り出した最初の島が「オノコロシマ」で、淡路島の絵島や沼島ぬししまがこれに当たります。出雲や大和との関わりが大いにありそうで面白い。

今回は、神話の世界と、弥生時代に作られ埋められていた松帆銅鐸や、鉄の生産基地・五斗長垣内遺跡かいたとを巡り、古代の淡路島に思いを巡らせます。



沼島（立神岩）：訪問しません

- 1 日時： 9月12日（火）雨天決行
- 2 集合： 近鉄 大和西大寺駅 南口
AM 8：00分出発
(生駒交通・超デラックスバス)
- 3 参加費： 4,500円（バス代金）
昼食を各自持参してください。
- 4 コース：
西大寺駅～淡路ハイウェイオアシス（休憩）
～絵島（オノコロジマ）～五斗長垣内遺跡～
伊弉諾神宮～高田屋嘉兵衛記念公園（昼食）
～松帆センター～おのころ島神社～
淳仁天皇陵～淡路ハイウェイオアシス（休憩）
～西大寺駅（帰着 18時頃）
* 今回は、日帰りの遠距離研修となりますが、
多数のご参加をお待ちいたします。
* 昼食のお弁当をご持参下さい。
- 5 申し込み： 事務局 古川 祐司まで

担当世話人： 古川・中井・坂東

9月自然教室のご案内 「矢田丘陵・秋の自然観察会」

今年も御宮知伸彦先生に大和民俗公園近辺の秋の植物観察を指導していただきます。

毎年参加者にご好評を頂いている目からうろこの自然観察会、魅力ある観察会をみんなで堪能いたしましょう。

自然や植物に関心のある方なら、どなたにも楽しんでいただける話題が満載です。

多くの方のご参加をお待ちしております。



- ◎ 日時： 9月19日（火） 9時～14時
(注1) 雨天の場合は中止となります。
(注2) サマータイムで実施しますが、終了時間が延びる可能性もあります。
- ◎ 集合場所： 大和郡山市 少年自然の家入口近辺
(〒639-1058 大和郡山市矢田町 574)
* 県立大和民俗公園駐車場から更に 300m ほど進んだところ
- ◎ 持参するもの： 弁当、飲み物（多めにご用意ください）、雨具、筆記用具、あれば図鑑とルーペ
- ◎ アクセス： 奈良交通バス（72系統）で矢田東山下車 徒歩 20分
* 近鉄郡山駅から JR 小泉駅東口行
…8時05分、25分（乗車12分）
* JR 小泉駅東口から近鉄郡山駅行
…8時00分、15分（乗車17分）
* 車の場合は自然の家の前の駐車場、または大和民俗公園駐車場を使用
- ◎ 雨天の場合の判断： 前日 19 時前の NHK 天気予報で降水確率 60%以上は中止
- ◎ 担当： 辻本



平成29年・8月度幹事会報告

日時：7月25日(火) 14:00~16:30

場所：奈良市中部公民館 2F 学習室

出席者：16名 欠席者：8名

I 会長挨拶：助成申請状況報告他。

II 事務局・会計報告

① 会員数 152名 (1名退会にて前月比1名減)

② 会計報告：6月度収支、予算執行状況報告

III. 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

1. 3か月並びに当月スケジュールの検討と確認
配布資料確認。当月スケジュールに付いては、
各Gリーダーが資料に基づき活動予定説明。

2. ならやまプロジェクト関係：配布資料説明

3. 月例研修会(報告と予告)：会報記事参照

・7月行事予定なく報告なし。

・8/1「吉野川源流を訪ねる」予告。

申込みは定員27名に達した。

4. 自然教室(報告と予告)：会報記事参照

・7月行事予定なく報告なし。

・8/22「平城京跡にて燕の埒入り観察」予告

・9/6「佐保台小学校放課後子供教室・校庭の
昆虫観察会」予告

5. 歴文研修(報告と予告)：会報記事参照

・7/11「物部氏の実像に迫る」報告

・9/12「国生み神話の淡路島と弥生古代遺跡を
訪ねる」予告

6. 内閣総理大臣表彰受賞祝賀会報告：会報参照

7. イベント(報告と予告)：会報記事参照

① 7/17「山もり・てんこ森(神野山)」報告

② 7/22「里山で遊ぼう!①」報告

③ 8/19「里山で遊ぼう!②」予告

8. 各種助成について：申請状況説明

IV. 広報関係：ネイチャーなら9月号編集確認

当会リーフレット改訂版作成作業進行中

V. 懸案事項、その他

イベント関係スタッフ振り返りを実施する。

以上

次回9月度幹事会は、8月29日 中部公民館

◇ 申し合わせ ◇

* 通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日
19時前のNHKの天気予報で、当該地域の午前
の降水確率が60%以上の場合、中止とします。

* 通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜
日】を振替活動日とします。

奈良県北部の降水確率は、奈良気象台17時発
表。(http://www.jma.go.jp/jp/yoho/335.html)

* 臨時活動日を月曜日にする事があります。

(事前に担当役員から連絡します。)

10月ならやま活動&行事予告

* ならやま活動

10月 5日 協働作業の日

10月 14日 芋掘りイベント

10月 19日 佐保台小学校 稲刈り

* 月例研修会

10月 10日(火)~11日(水) 一泊研修旅行

高知：牧野植物園・桂浜・杉の大杉・祖谷溪

* 自然教室

10月 17日(火) 秋のならやま自然観察会

◆ 処暑 (8月23日)

「処」は暑さが収まる意で、残暑
の厳しさが収まる日ですが、まだ
まだ暑い日が続くようです。

(行々子)

水平にながれて海へ処暑の雲

柿沼 茂



会報誌[ネイチャーなら]・第188号

発行：奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末 一

URL：<http://www.naranature.com>



編集チーム代表：坂東久平